

マルチニクの少年 (1983)

RUE CASES NEGRES
SUGAR CANE ALLEY
BLACK SHACK ALLEY

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 フランス

色彩 Color

時間 106分

初公開日 1985/11/23

公開情報 ヘラルド=ヘラルド・エース

【解説】

カリブの仏領の小島マルチニック出身の作家J・ゾベルの少年時代の回想を、やはり同地に生まれ育った黒人女流監督が、27歳の時にものにした小品。塩の河と呼ばれる農村地帯の少年のジョゼは母を亡くし、サトウキビ畑で働く祖母と暮らしている。大人が仕事に出ている間は子供たちの天下。様々な罪のない悪戯に興じていたジョゼたちだったが、ある日、ラム酒を飲んでみんな酔っ払い、仲間の一人が干し草に火をつけて大損害を出す。従って、彼らも畑に駆り出されたわけだが、誇り高い祖母はジョゼを働かせようとはしない。ジョゼは長老メドゥーズと親しく、彼から祖国アフリカの話、かつて奴隷の身が今は搾取される雇用者の身に変わっただけだという事実を聞かされる。やがて、長老も天に召され、成績優秀なジョゼは奨学金を受け上の学校に進むよう勧められる。ところが、実際に試験に合格してみると金は1/4の額しか支給されず、寮生にもなれないので、祖母は首都フォールに自分も移り住んで、孫の学資を稼いだ。彼はそこで同郷のレオポルドと親しくなるが、彼は“ベケ(=白人)”との混血で、父の地主のトライユ氏は、彼に村の子供たちとの交際を禁じていたのだ。やがて、馬の事故で亡くなる直前、トライユ氏は、黒人である息子には名字を継がせられないーと言い残し、レオポルドはショックで家出。一方、ジョゼは一度盗作と疑われた作文を認められ、奨学金の全額支給にありついた。祖母は喜んで故郷に帰るが、そのまま病没してしまう。ちょうど、その頃農場の黒人冷遇の記録を盗み出したレオポルドが連行されるのを、ジョゼは熱い視線で見守るのだった。“世界の全ての黒人街に捧ぐ”というパルシーの訴えが叙情的なスケッチの中にも色濃く浮かぶ作品。音楽はマルチニック固有のサウンド“ビギン”で、日本でも人気を博すマラボアが担当した。

【クレジット】

監督 ユーザン・パルシー Euzhan Palcy
原作 ジョゼフ・ゾベル
脚本 ユーザン・パルシー Euzhan Palcy
撮影 ドミニク・シャピユイ Dominique Chapuis
音楽 マラボア
出演 ガラリー・カドナ
ダーリン・レジティム Darling Legitimus
ドゥタ・セック Douta Seck